

【別紙様式 3】

再評価実施事業調査書

番号	10	事業名	通常砂防事業		路線又は箇所名等		(砂)白狐川(富津市)		
事業所管課		河川整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	平成6年度	用地着手年度	平成7年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成6年度 ~ 平成28年度	再評価の理由			
費用便益比 B/C	1.18	総費用	43.1億	総便益	50.9億	基準年	H20年度	供用開始 年度	H7年度

【事業概要】

(目的)

人家・学校・公民館などを保全するため、本川河道に床固工、流路工を配置し、渓岸崩壊・浸食を抑制する。また、上流域に砂防えん堤を配置し、土砂流出を抑制する。

主な施設内容

砂防えん堤：8基 床固工：6基 流路工：2,674m

【事業の進捗状況】

	全体計画	平成19年度 まで実績	平成20年度	残事業
事業費	35.2億円	25.4億円	26.2億円	9.0億円
事業内容				
砂防えん堤	8基	5基	5基	3基
床固工	6基	3基	3基	3基
流路工	2,674m	1,295m	1,475m	1,199m
事業進捗率	...	72.2%	74.4%	

【社会経済情勢等】

(流域状況)

白狐川流域は、風化しやすい未固結の泥岩・砂岩が主体であり、中流域では河床の低下により護岸や橋梁の基礎が洗掘されている。

また、上流域は極めて急勾配な溪流で、崩壊地が広く分布し、土砂流出が著しい。

一方、下流域は勾配が緩いため上流域から流入した土砂が堆積している。

流域面積 11.29km²

保全対象 人家61戸、学校、公民館、JR内房線、国道127号、市道 等

(投資効果)

砂防えん堤、床固工、流路工を設置することにより、人家、学校、公民館、鉄道、道路などを防護する。

【対応方針(案)】

平成20年度末時点で事業進捗率は74.4%となるが、上流域の砂防えん堤や、中流域の床固工・流路工が未着手であり、人家、学校などについては、土砂災害等に対する安全性が低い状態にある。

よって、これらの保全施設を防護するため事業を継続する。